

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23656374

研究課題名（和文） 発掘遺構と神社建築を中心とする祭祀・祭政用建物の概念に関する研究

研究課題名（英文） Research on the concept of the building for the religious service and politics, consisting mainly of excavation ruins and shrine construction

研究代表者

黒田龍二（KURODA RYUJI）

神戸大学・工学研究科・教授

研究者番号：40183800

研究成果の概要（和文）：纏向遺跡で発掘された掘立柱建物の建築復元を行った。現在最も古い建築形式を伝えている伊勢神宮正殿、出雲大社本殿との比較考察を行なった。それと平行して、古事記、日本書紀をはじめとする古代文献を用いて、歴史的な関係性の考察を行なった。その結果、纏向遺跡の棟持柱建物は、伊勢神宮正殿と直接の関係があることを推定した。また、纏向遺跡の大型建物は 3 世紀代のヤマト王権の大王の王宮であり、出雲大社本殿と同一の殿内祭祀を行なう建物であったことを推定した。

研究成果の概要（英文）：I restored a building with the base of pillars placed directly in the earth excavated in the remains of Makimuku. I compared it with the main shrine of Ise-jingu Grand Shrine which told the building and the oldest building form and Izumo Taisha Shrine. Parallel to it, I considered the historic relationship using a description of folk history, ancient documents including the Chronicle of Japan. As a result, Munamotihisira building of the remains of Makimuku estimated that I had direct relation to Ise-jingu Grand Shrine. In addition, it was the royal palace of the great king of the Yamato sovereignty of the third century, and the large building of the remains of Makimuku was the same as Izumo Taisha Shrine, and I estimated that they performed a festival in a building.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史

キーワード：纏向遺跡、伊勢神宮、出雲大社、神社、祭祀、本殿、初期ヤマト王権

1. 研究開始当初の背景

纏向遺跡は初期ヤマト王権の王宮とみられるが、その復元と具体的内容が推定されていなかった。

初期ヤマト王権と伊勢神宮、出雲大社の関

係は記紀に記述があるが、どこまでが史実か明らかでなかった。

2. 研究の目的

上記のような関連性を説明するために、発

掘遺構と神社建築から推定される祭祀・祭政用建物の概念を検討する。それに沿った形で纏向遺跡の復元設計および考察を行う。

3. 研究の方法

伊勢神宮の祭祀と建築の研究

出雲大社の祭祀と建築の研究

纏向遺跡の復元研究

春日大社、上賀茂神社など他の神社の祭祀と建築の研究

中国の古建築の調査研究

古墳祭祀の研究

以上のことを中心に幅広く調査研究し、考察した。

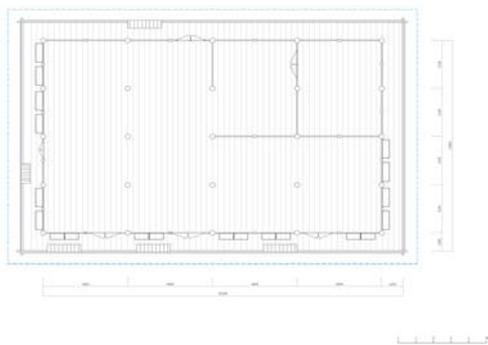
4. 研究成果

(1) 纏向遺跡は初期ヤマト王権の王宮と考えられ、その復元を行った。その復元の成果により、次のことが指摘できる。

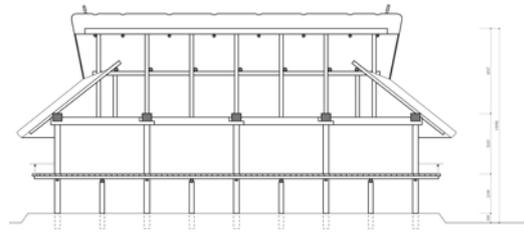
(2) 纏向遺跡の建物 C は、伊勢神宮正殿と規模、形式の類似が認められる。その類似は、日本書紀崇神天皇条に書かれている王宮から伊勢への宝鏡の奉遷の記述によって、直接的な関連があるといえる。

(3) 纏向遺跡建物 D の正面四間の偶数柱間という特性は、出雲大社本殿の正面二間と類似性がある。この類似は殿内で祭祀を行なうという共通性によると考えられる。そのような共通性が生じる理由は、古事記垂仁天皇条に記述があるように、出雲大社が初期ヤマト王権の王宮を模したからだと推定される。この出雲大社との類似を前提として、内部構造の復元が可能となった。

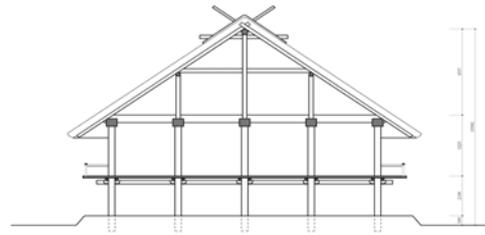
(4) 他の代表的な神社の研究、中国古建築の研究を通じて、伊勢神宮、出雲大社の祭祀と本殿の使用法は特殊であり、初期ヤマト王権の祭祀から派生したものとして、理解するのが妥当であると考えられる。



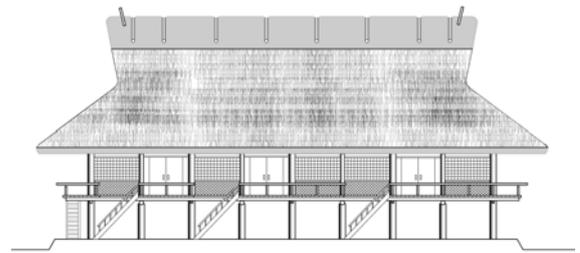
復元図1 建物D 平面図



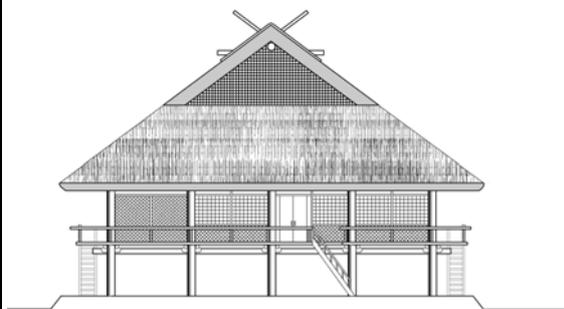
復元図2 建物D 桁行断面図



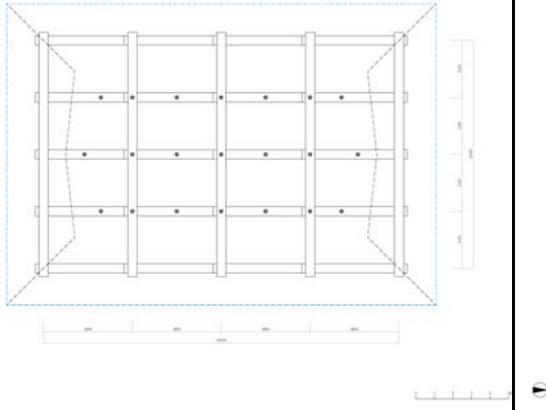
復元図3 建物D 梁行断面図



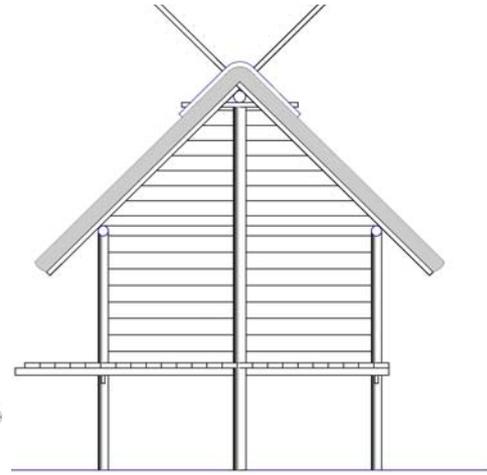
復元図4 建物D 東正面図



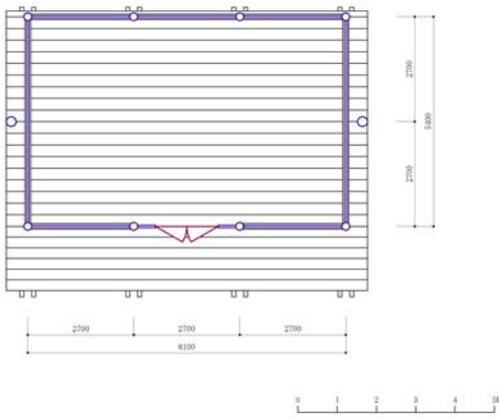
復元図5 建物D 南立面図



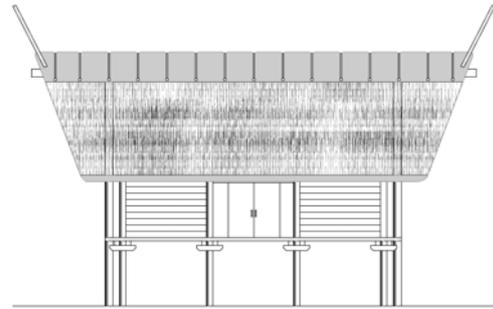
復元図6 建物D 梁伏図



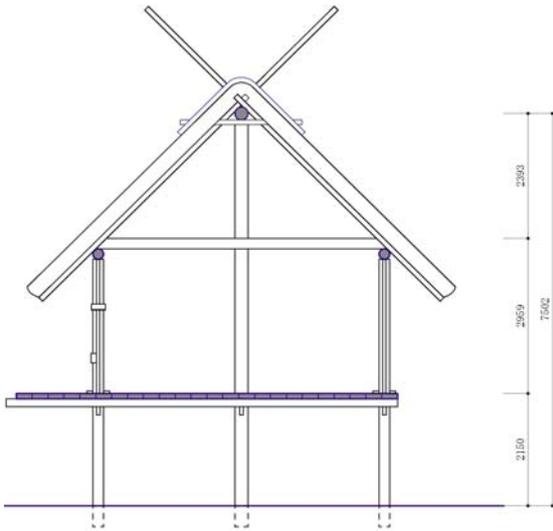
復元図9 建物C 南立面図



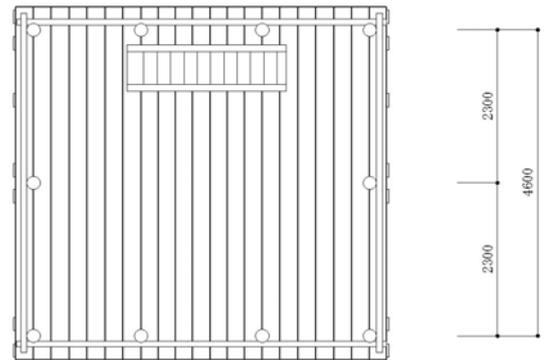
復元図7 建物C 平面図



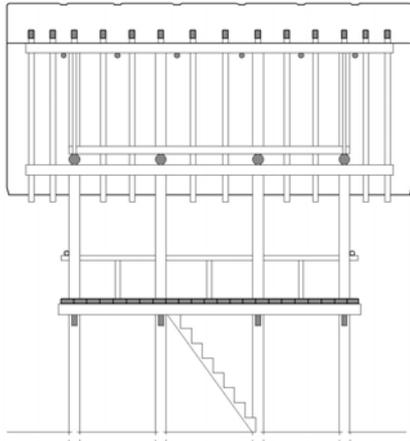
復元図10 建物C 東立面図



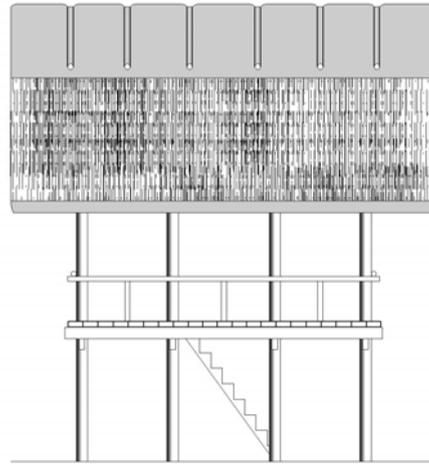
復元図8 建物C 断面図



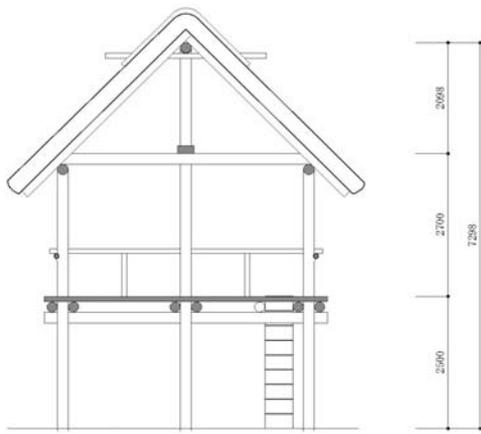
復元図11 建物B 平面図



復元図 1 2 建物B 桁行断面図



復元図 1 5 建物B 西立面図



復元図 1 3 建物B 梁行断面図

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

黒田龍二、出雲大社巨大本殿の源流、芸術新潮、招待論文、2012年6月、132-135

〔図書〕(計1件)

黒田龍二、纏向から伊勢・出雲へ、学生社、2012年、210

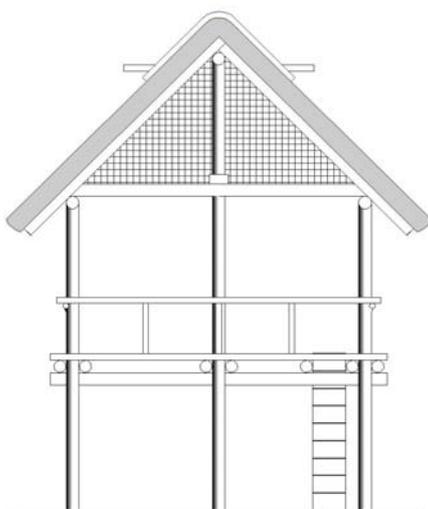
6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 龍二 (KURODA RYUJI)

神戸大学・工学研究科・教授

研究者番号：40183800



復元図 1 4 建物B 南立面図